JVC

JVCケンウッド

PTZリモートカメラ「KY-PZ510N」発売

4K60p IP配信を実現

水平画角80度の広視野角

自動追尾機能も搭載

JVCケンウッドは、JVCブランドから、ネットワーク経由で映像・音声をストリーミング配信できるPTZ（パン・チルト・ズーム）リモートカメラ「KY−PZ510N」を9月16日に発売した。同機は4K60pのストリーミング出力と水平画角80度の広視野角、自動追尾機能を搭載した製品で、本製品の発売により同社のリモートカメララインアップは全5種類となった。ユーザーは幅広い製品の中から用途に応じて必要な機器を選ぶことができる。

同社のPTZリモートカメラは、議会中継や講義の収録、コンサートの撮影などのライブ配信・ライブ中継の用途で好評を得てきた。今回、さらなる高画質化やリモート機能の強化、最新のIP伝送機能搭載などの市場ニーズを受けて「KY−PZ510N」を発売した。

KY−PZ510Nは、同社業務用ズームカメラとして初めて4K60pIP出力を実現。高感度ネイティブ4Kセンサーと4K60pエンジンを新たに採用したことで、人物の表情などを高精細かつ滑らか映像で撮影し、低帯域でもライブ配信できる。

また、同社業務用ズームカメラとして初めて水平画角80度（35ミリ換算：21・8ミリメートル）の広視野角を実現したのと同時に、特定の被写体を自動撮影できる「自動追尾機能」を標準搭載したのも大きな特徴となる。従来モデルと比べてより近距離での映像撮影が可能であり、被写体の中から特定の1人を選び、パン・チルト・ズームを利用した自動追尾により撮影する。

商品企画を担当した山田宏氏（商品企画部上席課長）は「この商品は〝私たちJVCケンウッドにしか作れないもの〟を目指して開発しました。それがまず、比較的求めやすい価格で4K60p出力に対応した製品ということになります」と説明する。

主な市場には4つの市場を考えたという。山田氏は「コロナ禍で変革を余儀なくされた学校での授業配信と、企業のウェビナー、学生あるいは、プロでも規模の小さいスポーツチームの試合の配信や宗教施設による配信などを想定しました」と話す。

同機は伝送機能として、米国NewTek社が開発したNDIプロトコル（バージョン5）を採用するなど強化。マニュアルでカメラをコントロールする際のストレスを軽減する。

また暗号化やパケット欠損時、ジッター補正が可能で、プロからもニーズの高いSRT（Secure Reliable Transport）プロトコルを搭載。もちろん、YouTube配信などで必要となるRTMPSにも対応する。

「各プロトコルには画質や遅延量など特性があります。さまざまな設置条件に合わせて、最適なものをお客さまに選んでいただけるようにしています」（山田氏）。

さらに、ウェブ会議用カメラとしても利用できるよう、同社業務用ズームカメラとして、初めて4KでのUVC（USB Video Class）出力（30p）に対応した。一般的なウェブ会議用のソフトウエアで利用できるため、双方向のやり取りが必要な場合でも高品質な映像で伝送でき用途が広がる。

開発担当の藤原康生氏（課長主事）は「この製品には、目に見えない端子以外にさまざまな伝送プロトコルを搭載しています。これは当社がこれまでカムコーダー開発で培ってきた『1つの筐体に多彩な技術を搭載し、お客さまが使いやすいシステムとする』という理念を反映しています」と話す。

（左から）KY-PZ510Nを手にする山田氏と藤原氏、KY-PZ400Nを持つ営業担当の古川寛氏

KY-PZ510N

（製品ページ）

制作市場向けカムコーダーで培った画質・機能を投入

多彩なバリエーション 5製品をラインアップ

同社はこれまで4製品のリモートカメラを発売してきた。

2016年には、高倍率光学30倍ズーム搭載、俊敏かつ静粛性に優れたHD PTZリモートカメラ「KY−PZ100」システムを発売し、議会中継などで利用されてきた。

同機はHDMIと3G−SDI、ストリーミングの同時出力が可能で、MicroSDカードスロット搭載により、内部記録とループ記録に対応。ダイレクトドライブ機構の採用により、静音で俊敏な動作を実現している。

2020年には、NDI−HXおよびSRTプロトコルを標準装備し、4K30p出力モードを搭載した4Kモデル「KY−PZ400N」を発表した。水平画角71度の広角撮影が可能で、被写体に近い環境でも使いやすい。

さらに同年、NDI−HXおよびSRTプロトコルを標準装備し、高品位なHD出力に対応した「KY−PZ200N」および、圧倒的なコストパフォーマンスを実現したHDエントリーモデル「KY−PZ200」を発売した。両機はともにUVC出力を装備し、コロナ禍以降急速に伸張したWeb会議システムのPC用会議カメラとしても使用することができる。

いずれも当時の市場状況をとらえた製品で、発売以来さまざまな用途で利用され、「JVCケンウッドのPTZズームカメラ」を市場に訴求してきた。

今回新たに発売するKY−PZ510Nは、今必要な最先端の技術を取り入れつつ、幅広いシチュエーションで活用可能なモデルと言える。山田氏も「この製品は、業務用カムコーダーで採用した画質・機能を進化させて搭載しています。お客さまにはぜひさまざまな場面で活用していただきたいと考えています」と話している。今後の同社PTZリモート製品の活躍が楽しみだ。

KY-PZ100W

（製品ページ）

KY-PZ400N

（製品ページ）

KY-PZ200

（製品ページ）

KY-PZ200N

（製品ページ）